

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (九州)		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・来客数が目に見えて多くなっている。特に若い世代が増えた。
		百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・寒波の影響で重衣料や防寒雑貨を中心に売上が増加した。
		百貨店（マネージャー）	お客様の様子	・株高が続いており、その資産効果がある客による高額消費がある。外国人観光客による購買も引き続き好調である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・野菜の高騰が続いており、青果部門の売上は良いが販売量が余り伸びていない。それ以外の部門も寒さで鍋の具材が売れると思っていたが、野菜の高騰により売れていない。
		スーパー（統括者）	お客様の様子	・年末年始の買物が、これまでより高単価なものが多く出始めた。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・毎年1～2月は繁忙期であるが、今年は例年に比べ早い時期から動きがある。来客数が多く新車受注につながっている。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	来客数の動き	・12月以降、1年を通して一番の繁忙期の翌月が売上が最も下がる月だが、今月に入って新規客が増えている。他県からの転入者が純増している。
		ドラッグストア（部長）	販売量の動き	・3か月前に比べ、売上も順調であり、購入単価も上がっている。気温が低いこともあり、季節商材の動きが順調である。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・年末から1月のセールにかけて、消費動向が拡大傾向にあり、施設としての新店舗や販売促進の効果もあるが、気温の低下もあり、季節商材の売行きが前年を大きく上回っている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・12月同様、来客数が多く景気が上向いている。客単価も低くなく、10名以上の団体客も多かった。
		観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・2月は大口の予約が入っており、景気が良くなる。
		タクシー運転手	それ以外	・今冬はかなり低温で客の動きが例年に比べてかなり鈍い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は低温が続き、昼夜問わず街の動きに鈍さがあったが、観光客のタクシー利用は確実に増加しており堅調さを保っている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・新規販売経路の販売促進活動の強化が奏功してきた。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・郊外大型店の元旦からのセールの影響で商店街への来客数が減少している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客は来店するが購買に至らない。現在は非常に寒いので前年比では少し良いが気候が落ち着くと前年と変わらなくなる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年と比較して冬の訪れが早く冬物商材の売行きが好調である。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・当施設周辺に商業ビル、飲食ビルが開業し、来客数は前年を確保しているが、前年の10月頃から各店の購入客数は減少し、売上減少が続いている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・寒波の襲来のなか、来店促進催事を開催した。また、お買得感のある贈答品解体、金券バック催事、恒例の有名駅弁、工芸物産催事を行い、初日及び土日や祝日の来客数が好調で滞留時間増となった。特に初商い、ギフト解体は好評で開店前に入場開始や、会場の混雑緩和と安全対策として会場への入場制限を行った。
		百貨店（営業統括）	販売量の動き	・年始の商況として来客数は前年を上回るものの、購買意欲は高まらず客単価が上がらない。また中旬からは厳冬の影響で来客数も鈍化した。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・熊本地震から1年半がたち、生活も落ち着きを取り戻している。復旧に必要な物もほぼ買い直しが終わり、少し落ち着いている。これからは必要な物しか要らないという声が多く、買物に慎重になっている。	
	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・弊社だけでいうと前年比減という見通しだが物産展を取りやめて衣料品の催事を増やした。部門別で差異が出ている。物産展の取りやめの影響がそのまま出ている。	

スーパー（店長）	来客数の動き	・今年に入って寒さが続き客足が鈍っている。野菜の相場が高く売上金額は回復しているが全体的な売上増にはつながっていない。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・年末のセールは前年比増となったが、1月に入り売上、来客数共に前年割れが続いている。厳しい寒さや野菜の高騰から、鍋物商材や日配品の売上が特に厳しい状況で推移している。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・天候により野菜の高騰が続いている。鍋の季節に売行きは悪いが単価が上がって額としてはある程度確保している。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・年が明けて、売上、来客数が落ちてきている。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・以前は1月のセールでまとめ買いする客が多かったが、今は必要に応じて必要な数だけ購入する。そのためセールで特に盛り上がったわけでもなく、前年並みであった。にぎやかではあったが値引き後の利益を考えると変わらない。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・平昌オリンピック直前にもかかわらず、映像商品の盛り上がりが見られない。白物も年明けから需要が落ち着いてきた。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・前年並みで推移している。テレビ、洗濯機、エアコン、携帯電話などが好調だがパソコン関連商品は不振が続いている。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・都市部での催事は順調だが店舗での売上は初売りから余り良くない。来客数も前年比で少ない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は高止まりの状況である。今後の仕入価格の見通しも不透明である。客の状況から、定額購入や定額購入が増加したわけでもなく、購入の形態にはさほど変化はない。
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・元旦から10日くらいまでは好調であったが、後半は寒さも厳しく売上も伸びなかった。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・当市の繁華街を歩いてみると日曜から木曜までは人通りが少なく、金、土曜だけ人通りがある。景気が悪くなっている状況である。
都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・前年比で宴会・宿泊者数が増えている。単価に変動はないが宴会数が増えている。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・第4四半期に入り、学生を中心とした動きは活発になってきた。旧正月と学生旅行の最盛期が重なり、特に台湾、シンガポール、韓国方面への座席確保が厳しい状況である。一方、国内は関西の大型レジャー施設の人気が続き好調に推移している。
旅行代理店（企画）	販売量の動き	・店舗の来店状況に影響される。
タクシー運転手	お客様の様子	・今年は寒いせいか夜のタクシー利用がますますだった。昼のタクシー利用は少なかった。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・建設業関係が一段落した。
ゴルフ場（従業員）	お客様の様子	・小さな会社は人手不足でどこも困っている状況である。高齢化も進み後継者もいないことにより店をたたんだり、そういったことで現場は悩んでおり相談を受けることがある。
競輪場（職員）	販売量の動き	・売上総額に伸び代がない。
美容室（経営者）	来客数の動き	・熊本地震で移転して何か月か経つが、新規開店のときもさほど来客はなく、今は料金も下げた。とても大変である。
美容室（店長）	お客様の様子	・客から景気の良い話が出てこない。売上も変わらない。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・季節要因であるが、1月は体調不良による入院が増加することによりサービスのキャンセルが多発する。
設計事務所（代表）	来客数の動き	・来客数が思ったより少ない。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築受注に関して微増ではあるが、この3か月間は前月増となっている。

	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・マンション販売は堅調だが、戸建ての高額物件になると客の反応は鈍い。通勤に時間が掛かる地域の物件もあるが、そういったところは客が付かない。地理的な問題で売行きが左右される。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・正月明けの初売りから客が少ない。さらに、この1月は寒くなり来客数、販売量共に落ちており、非常に厳しい状況である。
	一般小売店[精肉](店員)	販売量の動き	・1件当たりの平均受注量がやや落ちている。
	一般小売店[茶](販売・事務)	来客数の動き	・年末セールでまとめ買いしていた客が多かったため、今月は来客数も少ない。寒さの影響もあり外を歩く人の姿も売上に結び付かない。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・1月に入ってから婦人服が大苦戦している。セールに入って前年並みになるかと判断していたが寒さが厳しかった要因もあるが非常に厳しく、特に低価格帯が厳しい。一方、紳士服はセールを中心にまずまずの数字である。食料品は少し勢いが落ちている。
	百貨店(営業担当)	販売量の動き	・冬物のセールが不振であった。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・来客数が前年比で厳しい。客単価は前年比増である。熊本地震以降、競合店も戻ってきており、その影響で来客数減となっている。
	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・10月までは売上は堅調だったが、11月は僅かに前年を割り、12月は11月より1日当たりの売上が落ちるとい、余り小売業では見られない現象が起きた。1月も12月ほどではないが前年を僅かに下回っている。
	コンビニ(経営者)	お客様の様子	・年初より来客数が激減している。競合店出店の影響も大きい。家で過ごす家庭が多い。クリスマスや年末で何かと出費が多くなり、年明けは無駄遣いをしないようにしている。
	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・3か月前と比べて客の動きが鈍い。特に目立った理由はない。売上も少し悪い。
	衣料品専門店(店員)	それ以外	・回転率を上げるため商品量が前年より減っているの、セール品の在庫が非常に少なく、セール売上が前年より減少している。
	衣料品専門店(総務担当)	競争相手の様子	・商店街の高齢化が甚だしく、それに伴い客が減少している。そのため競合店が1店舗閉店し、ますます厳しい状況になっている。
	その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター](統括者)	来客数の動き	・前年の催事の反動で来客数が減っている。客単価は横ばいであり、売上も前年に届いていない。
	高級レストラン(支配人)	来客数の動き	・予約、来客数が少ない。
	一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・前年よりも来客数が少なく、客単価も悪い。客からも景気の悪い話が聞こえてこない。
	都市型ホテル(スタッフ)	単価の動き	・前年に比べ、コンサート等の特需要素がなく、稼働、単価共に減少している。成長率も4ポイント減少しており、若干後退している。
	都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・外国人観光客による購買は好調だが、国内の団体客の入込が鈍くなっている。
	都市型ホテル(副支配人)	販売量の動き	・宿泊単価が大きく下がることはないが、日、月曜の宿泊者数が減っている。
	通信会社(営業)	お客様の様子	・放送及び通信サービスを提供しているが、他社への優位性が時代の流れと共に変化し、効果が薄れてきている。以前は通信サービスに対し放送部分を付加価値として位置付けていたが、テレビ離れが加速していることが要因の1つである。
	美容室(経営者)	販売量の動き	・今一つ景気は回復していない。天候要因もあるが美容業界では客の動きが悪い日が続いている。天候が回復して春になると少しは良くなる。
	設計事務所(所長)	単価の動き	・ガソリン・灯油や生鮮食料品の値段が上がっている。
x	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街の人通りが増えない。厳しい寒さも一因だが、消費税の引上げの報道も客の話題になっている。
x	商店街(代表者)	来客数の動き	・年末の印刷物が大幅に減少した。

	x	商店街（代表者）	お客様の様子	・年末年始は毎年のことだが、今年は大雪やシケがあり、ガソリン、灯油、野菜、魚の予想以上の高騰で台所を預かる主婦にかなりの負担が掛かり、節約しなければならない状態が続いている。
	x	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・年末から年明けにかけて寒さが厳しいために、商品の入荷が全くなく、例年198円のレタスが600～800円まで上がった。それを赤字覚悟で客に合わせる値段で販売し、来客数もかなり減り、かなり厳しい状況が続いている。
	x	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・客の話を聞くと、本当に売れていない。もちろん魚も買ってくれない。魚が少ない上、なかなか魚価が上がらない。ウナギが来週から値上がりする。
	x	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・相変わらず来街者がほとんどいない。
	x	観光名所（従業員）	来客数の動き	・朝晩の冷え込みが厳しく、チェーン規制等、交通機関に影響することがあり来客数も激減している。
	x	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・受験や転勤の時期のため一時的に悪い。
企業動向関連		-	-	-
(九州)		農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・年明けから例年にはない高値市況となり、動きが遅くなった。現状は徐々に回復しつつあるが、先週からの寒波により、再び出荷量が減少する。寒暖の差が大きいため、トマトなどは甘く美味しくなる。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は全般的に受注件数が前年比約110%と増加した。見積額に変化はないが件数が増えている。
		鉄鋼業（経営者）	それ以外	・これから先の動向に注意が必要だが、毎月の受注量の増減幅が小さくなってきており、増加傾向で安定してきた。
		金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・液晶関係の新規投資の案件がある。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・車載関連、モーター関連の取引先が依然好調である。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・店舗からの受注量が前年比105%と雑貨中心に増加している。通信販売の配送も販売額、販売量共に増加している。前年末から好調に推移している。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅着工が伸び悩んできているほか、新型車の販売効果の一巡から車の売行きにやや陰りが出てきている。一方、例年より早い寒波の到来や株高を背景に百貨店を中心に衣料品・宝飾品等の売上が増加してきている。
		新聞社〔広告〕（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・広告の動きが少し良くなっている。
		経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・たまたま新規の契約が成立した。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・人材教育投資に積極的な会社が増えてきている。
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・大型の設備投資計画の情報が増加した。食品製造業の老朽化した設備の省エネ更新や製造量の増加、加えて人材確保のためである。急速に働き方改革が進んでいる印象を受ける。人員を減少させるために投資するのではなく、離職を減少させ、残業や3交代勤務の減少等を経営者側は意識している。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・予想どおり1月は年末年始の特需の反動から売上は厳しくなる。特にスーパーマーケットの動きが悪い。居酒屋は予想よりは良い。メーカーも工場稼働日が少ないため厳しかった。心配していた鳥インフルエンザは、香川県で発生したがその後の発生はなく風評被害もなく、輸出も香川県産以外は問題はなくほっとしている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・比較的安定した受注量で推移している。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客の動きは良くなっている。ただ時期的に1～2月は、今期の決算状況や在庫調整などで入れてくるので、その数字がどういった数字なのかははっきりしない。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・限られた業種では引き合い及び受注量にかなりの改善がみられる。市場が活況になると必然的に価格が上昇するが、今回はその定説がみられない。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・直近3か月の受注に下方修正が入った。

	その他製造業 〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・1月のせいか、当初に思っていたほど客の生産が上がっておらず、売上が少ない。来月以降に期待している。
	建設業（経営者）	取引先の様子	・客の様子から状況は変わっていない。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年1月は貨物の荷動きが悪いが、今年は特に悪い。同業者も倉庫は埋まっているが、商品が回転しないためもうからない。他倉庫や物流不動産から借地して商品を保管している状況である。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・良くなる材料も悪くなる材料もなく、企業活動においてはほぼ変わっていない。個人消費については、小売業者から売上が良いという話も聞かない。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・業績悪化の取引先が少ない。
	金融業（営業）	取引先の様子	・景気は悪くはなく、横ばいである。製造業は、一定の需要を抱えており、特に半導体が好調を維持している。重厚長大も悪くなく3か月前と変化はない。
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・閉店する店が増えてきた。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・3か月前と比較すると変わらないか少し良い。12月はタクシー、ホテル、飲食店それぞれ良かったが1月に入ってからはかなり悪化し前年比でも若干悪い。
	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村から発注される調査や計画策定、設計等の委託業務の追加業務を営業しても、12月の補正予算に計上されることは少なく、新規発注が少ない。また、建築設計の業務においてプロポーザルでの一般公募をされると、100件近く応募があるため受注に結び付かない。
	農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・前年と比べ、荷余り感や価格値下がりなど低迷傾向が強い。
	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新規物件が出てこない。仕事の量もやや少なく他社の工場も空きがある。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年と比べると1月は特に売上の出だしが悪い。インターネット販売は前年並みかそれ以上であるが、百貨店や量販店等の商社を通じた通常の取引が前年比1割以上落ち込んでいる。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の第4回発注見通しが発表されたが、極端に前回より減少している。ゼロ国債工事も発表されたが非常に少ない。現在は手持ちもあるが2～4月は全く予想できない。地方までは補正予算はなかなか計上されないようである。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・ある一部の荷主、特に衣料品関係の収益が下がっていることにより当社にも影響が出始めている。生産性向上で何とか踏ん張っているものの、それ以上の収益悪化が懸念される。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・小売業、サービス業、特にスーパーマーケットや飲食業に関しては天候の悪化により売上が急激に落ちている。したがって以前より若干景気は悪くなっている。
	x	-	-
雇用 関連 (九州)	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・直接雇用を前提とした紹介予定派遣の問合せが増えている。また、その際に発生する手数料について、以前は料金交渉をする企業がほとんどだったが、今はそういったことはほとんどない。人材確保が困難な状況が続くなか、紹介手数料や派遣料金を適正に受け入れる雰囲気になっている。
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・直接雇用の問合せなどが増えているが、求職者の動きが鈍く登録が少ない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年度末に近づき求人依頼・求職者登録が増加傾向にある。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・大学生の今年度の内定状況はおおむね好調のようだ。企業の人材不足も顕著で景気の良さを感じるが、長期の人材不足は逆に悪影響を与える。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人数は微増し、派遣登録者は減少している。登録者の確保が課題である。

	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・企業からの依頼は堅調に伸びている。全体景況感が良く、人材不足の企業が多いことが要因である。また正社員求人も非常に増加しているため、派遣社員が正社員になることもあり、派遣登録者の不足が顕著になっている。そのため企業の依頼に対して紹介できないものも増加しており、成約件数は横ばいである。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・取扱求人件数が月を追うごとに前年を下回っている。
	職業安定所(所 長)	求人数の動き	・求人倍率が高くなっているが、募集をしても人員がそろわず継続求人が多くなっている現状であり、景気の影響とは考えられない。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・建設業は復興需要のための解体作業等の募集が一段落し、前年度より減少した。派遣社員・請負の求人は増加しているが、携帯電話の販売員等、求職者に人気がなく充足が難しい職種の求人比率が高く、大半が充足しないまま更新され、結果として求人倍率を押し上げている。
	職業安定所(職 員)	周辺企業の様子	・業界、企業により景気に格差が出ている。大企業は業績が上がっているが、零細企業は人材不足のため、現従業員で対応できる分まで回しているため、平均すると変わらない。
	職業安定所(職 業紹介)	求人数の動き	・引き続き求人数の増加がみられ管内の有効求人倍率も高い水準で推移している。
	学校[大学] (就職支援業 務)	求人数の動き	・新卒採用に向けた求人受理件数は前年度比で大幅に減少している。採用活動を続けている企業もあるなか、求人受理件数が減少している理由は景気動向ではなく、学生の就職活動が終了し、来年卒業の学生を採用する方向へ企業側が移行しているためである。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新年度に向けての事務員の派遣依頼が入ってくる時期ではあるが、例年より動きが遅く採用について慎重になっている。
x	-	-	-